

## 黙示録13章1-10節 「獣の国」①

### 1A 獣の出自 1-2

### 2A 獣の地位と権力 3-6

#### 1B 悪魔への賛辞 3-4

#### 2B 神への冒瀆 5-6

### 3A 獣の一時的勝利 7-10

#### 1B 聖徒たちへの戦い 7-8

#### 2B 聖徒たちの忍耐と信仰 9-10

## 本文

私たちは、黙示録の中心的中身に入っていますが、今晚は 13 章を読みます。今晚と次回の学びで、二回に分けて 13 章を取り組んでいきたいと思えます。ここでの中身は、「獣の国」であります。私たちは、11 章 15 節で第七のラツパが吹き鳴らされ、キリストが来られることによって、「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」という天での声々が聞こえるのを読みました。キリストの御国が間もなく到来します。私たちキリスト者も、御国を受け継ぐ約束が与えられていました。「私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった(1:6)」とあります。

しかし、竜とも呼ばれるサタン、悪魔が神の主権や力に対して反対していることを私たちは前回の学びで知りました。12 章において、天において戦いがあるが竜が天の使いを三分の一、自分のところに引き寄せているけれども、ミカエルとその使いとの戦いにおいて勝つことができず、地上に投げ落とされたという言葉があります。自分が神に裁かれまでの時間が短いことを知って、暴れまわります。そこでサタンがキリストの御国に人々が入るのを阻止するために、偽のキリストの御国を地上に立てます。それが 13 章の内容です。私たちは、「反キリスト」という言葉を使いますが、ギリシヤ語の「アンティ」という「反」を示す言葉は、実はもっと正確にいうと、「代替の」とか「取って替わって」という言葉になります。つまり、「本物のキリストの御国が来る前に、偽物のキリストの代替物が来る」ということです。本物ではなく、偽物を掴まされるということですね。

私たちは、サタンとの戦いの中にいることは、同じ使徒ヨハネが第一の手紙の中で話していました。「5:18-21 神によって生まれた者はだれも罪の中に生きないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠

のいのちです。子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。」神から生まれた者が、罪の中に留まることはできず、また悪い者、サタンは触れることができません。そして全世界は悪い者の支配にあります。けれども、その中で私たちは御子を知る力が与えられました。そして、偶像を避けなさいと勧めています。終わりの日には、このことが獣、反キリストによって最も鮮明な形で現れます。獣の、悪魔の権威、力、位が与えられて、像にした獣を拝むように強要されるようになります。

## 1A 獣の出自 1-2

1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。

使徒ヨハネが、新たな幻を見ます。「海から一匹の獣が上って来た」と言っています。前回の学びを思い出してください。前回 12 章にて、竜が女を追いかけて、女が荒野に逃げたところを読みました。女はイスラエルです。そして、竜が、イスラエルが荒野のところで神によって守られ、養われているので、いきり立ち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行ったとあります。そして 12 章の最後には、「そして、彼は海への砂の上に立った。」とあります。海とは、黙示録 17 章にあります、「17:15 もろもろの民族、群衆、国民、国語」とあります。荒れ狂う、世界の大国の興亡の中で、獣が台頭してくる姿であります。

そして、ここに出てくる獣の姿は、ダニエル書 7 章を色濃く反映しています。「2 私が夜、幻を見ていると、突然、天の四方の風が大海をかき立て、3 四頭の大きな獣が海から上がって来た。」海から四頭の獣が出てきていますね。聖書では、海はしばしば、罪が深くに潜み、また悪霊どもが閉じ込められている地の深いところに接しているような、大きな世界のことを指しています。そこから、国々が台頭しました。そして黙示録 13 章において、「十本の角」とあります。これはダニエル書 7 章を続けて読んでいくと出て来ます。「4 第一のものは獅子のようで、鷲の翼をつけていた。見ていると、その翼は抜き取られ、地から起こされ、人間のようになり二本の足で立たされて、人間の心を与えられた。5 また突然、熊に似たほかの第二の獣が現われた。その獣は横ざまに寝ていて、その口のきばの間には三本の肋骨があった。するとそれに、『起き上がって、多くの肉を食らえ。』との声がかかった。6 この後、見ていると、また突然、ひょうのようなほかの獣が現われた。その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。7 その後また、私が夜の幻を見ていると、突然、第四の獣が現われた。それは恐ろしく、ものすごく、非常に強くて、大きな鉄のきばを持っており、食らって、かみ砕いて、その残りを足で踏みつけた。これは前に現われたすべての獣と異なり、**十本の角**を持っていた。」ここですね、第四の獣にある十本の角です。第一の獣、獅子がバビロンを表し、第二がメディア・ペルシヤ、第三がギリシヤ、そして第四がローマを表しています。ローマの中で、世界が十に分割されることが示されています。

これは、ダニエル書 2 章において詳しく明らかにされていました。人の像があり、金の頭はバビ

ロン、銀と両腕はメディア・ペルシヤ、青銅の腹と太ももはギリシヤ、鉄の脚はローマです。この鉄の脛であるローマが、足は粘土と鉄が混じり合っていて、それで十本の足の指があります。これはローマ後の歴史で、その影響力が西欧とロシアの地域において残っており、それが世界に影響力を与え、最後は十人の王、つまり十の支配圏になるということを、予告しています。

イエス様は、オリーブ山において「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が来ます。(マタイ 24:7)」と言われましたが、それが「産みの苦しみの初め」と言われました。世界的に民族と民族、国と国が敵対して戦ったのが二つの世界大戦です。けれども、そこには神のもう一つのご計画があり、イスラエルの民が世界中から帰還して、国を建てるということが起こりました。ユダヤ人が東欧やロシアから帰還を始めて、第一次世界大戦後に英国がバルフォア宣言によって、ユダヤ人の民族郷土として認められました。そして第二次世界大戦の中でホロコーストが起こり、その後、国連がユダヤ人の国家、イスラエルを建てることを決議しました。しかし、その後の世界は一気に国と国がくっついたり、離れたりしてグローバル化して、まさに粘土と鉄のような混じり合いが起こりました。そして、諸国が欧州連合を始めとして、地域において統一された経済圏を作るべく動いています。身近なところでは、中国が一带一路という、シルクロード構想を抱えています。

そして 13 章の本文には、「七つの頭」とあります。これはダニエル書 7 章において、存在しなかったものです。頭は一つだけでありました。この七つの頭について、また獣全体の秘儀については黙示録 17 章において明らかにされているので、その時を待ちたいと思います。

それから、「角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった」とあります。ここから、獣がどのようにキリストに取って替わろうとしているのか、そして神に対抗しているのかを見ることができます。キリストが来られる時に、主は多くの王冠をかむっていることを 19 章 12 節でみることが出来ます。キリストが全ての王の王であることを表しています。しかし、キリストに額づくのではなく、自分こそが王であり、それ以上の権威はないとするのが、ここで意味する王冠です。そして、「神をけがす名」が付いています。これが、獣の特徴です。獣がこれから、神の名を罵るという高慢の罪を犯すところを読んでいきます。

ダニエル書 7 章には、第四の獣の角の間からさらに小さな角が出て来ることを教えていますが、その角に「大きなことを語る口」があることを教えています。「8 私がその角を注意して見ていると、その間から、もう一本の小さな角が出て来たが、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。よく見ると、この角には、人間の目のような目があり、大きなことを語る口があった。」人間のような目があって、そして大きなことを語る口があります。これが、神に対する汚れた言葉へとなっています。人間中心主義から来る、神への冒瀆です。

2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口のものであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。

ダニエル書 7 章では、第一の獣が表す獅子、第二の獣は熊、第三の獣は豹、第四の獣が十本の角を持っている獣でしたが、ここでは第四の獣であるローマを基本にしなが、これまでのバビロン、メディア・ペルシヤ、ギリシヤの特徴もすべて兼ね合わせた国であることが分かります。単なるローマの延長ではなく、もっと靈的に、これまでの帝国の背後に働いていた悪魔がこの獣にあって一気に、全世界を支配しようとしている試みであることが分かります。豹というのは敏捷ですから、反キリストが支配するのはギリシヤのように非常に速いということです。足が熊のようでありますから、ペルシヤ帝国のように広域に渡って、物量や人海戦術によって支配します。そして、バビロン帝国のように、小さな国々を獅子のように喰らっていきます。

そして、「竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。」とあります。12 章において、獣の背後にある存在は竜であることが、既に描かれていました。「12:3 また、別のしるしが天に現われた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。」

悪魔は、神の選ばれたキリストに対抗するために、父なる神がキリストに行われたことを真似することで対抗します。神のなさることを真似することで、人々が真理ではなく偽りを信じるように惑わすのです。神は、キリストにご自分の力と位と権威を与えられましたが、悪魔は反キリストに自分の力と位と権威を与えます。覚えているでしょうか、荒野で 40 日間断食された後、悪魔が彼にやってきて誘惑しましたが、彼はイエスを高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。(マタイ 4:8)」と言いました。アダムが罪を犯したので、アダムに与えられた万物の支配が悪魔に明け渡されてしまいました。しかし、神はキリストにこれらの支配権、力、位を与えられて、キリストにあって人々が万物を支配する権利を取り戻そうとしておられます。そのために神はキリストをこの世に遣わされました。しかし、悪魔は誘惑をして、今、この国々の栄華を与えると言ったのです。けれども、イエス様は世界をご自分のものとするために、十字架の道を歩まなければいけません。その苦しみを通られて、その流される血を代価として、初めて全世界をご自分のものとし、その勝利をキリスト者に分捕り物の分け前をして、そして父なる神のものとするのです。ですから、イエスが、十字架に行かれるのをいさめたペテロに対して、「下がれ、サタン。(マタイ 16:23)」と言われたのは、そのためです。

しかし、悪魔はある人物に同じようにして、全ての国々を与えるようにさせ、その人物はそれを受け取ります。彼が反キリストです。いま見ましたように、世界の諸国の興亡の背後には悪魔が働いています。権力があるところにつけばつくほど、悪魔が差し出す支配を欲する誘惑の中にお

かれます。国々の指導者にはそのような誘惑がありますが、悪魔は神によって定められたときに、その権威を、不法の人、罪の人に与えることが許されるのです。したがって、父なる神がおられ、その権威と力のすべてを子が受け取っておられるように、反キリストも悪魔の力と権威と位を受け取ります。

## **2A 獣の地位と権力 3-6**

### **1B 悪魔への賛辞 3-4**

3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、4 そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう。」と言った。

「その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われた」ということですが、頭の一つは反キリストを示しています。彼が打ち殺されたかと思われたとありますが、14 節に「剣の傷を受けながらもなお生き返った」と書かれています。このように、このほとんど復活のように、致命傷から癒された出来事は、既に 11 章 7 節にありました。「そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す」とあります。底知れぬ所、つまり悪霊どもが幽閉され、後に悪魔自身が幽閉される所に落ちていたのですが、そこから上がって来るということです。この反キリストが致命傷を受ける姿を、ゼカリヤは次のように預言していました。「11:17 ああ。羊の群れを見捨てる、能なしの牧者。剣がその腕とその右の目を打ち、その腕はなえ、その右の目は視力が衰える。」

そして、これが神がキリストを甦らせることによって、この方が全能の神の御子であることを明らかにしたという真似事をしているのです。「ローマ 1:4 聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」この方が甦られ、昇天して神の右の座に着かれましたが、それによってこの方が主であると全ての人々が告白して、父なる神がほめたたえられるようになります。「ピリピ 2:9-11 それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」今、3-4 節で読んだのは、このことの真似事です。人々は獣が生き返ったと思い、獣に従います。そして、獣に権威を与えたのは竜なので、竜を拝みます。

テサロニケ人への手紙第二には、多くの者がなぜ反キリストに従うかの説明が書かれています。を開いてください。「2:9-12 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。な

ぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。」彼らが福音の真理への愛を持っていないために、惑わす力が送り込まれるということです。そして、これはまた神の、彼らが真理を拒むことに対する裁きとなっています。ですから、私たちは気を付けないといけません。キリスト抜きでの平和、キリスト抜きでの正義、キリスト抜きでの愛、キリスト抜きでの一致・・・キリストこそが全ての全てであり、この方の御名が高らかにほめたたえられないといけないのに、この方を退けて平和、正義、愛、一致を求めていくなれば、必ず惑わしに会います。

そして獣に逆らうことはできない、と告白します。ここから、キリストが勝利者として、征服者として地上に戻って来られるのですが、獣がその真似をして、勝利者として君臨し、彼に逆らう者たちをことごとく滅ぼす体制を作っていきます。

## 2B 神への冒瀆 5-6

5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。

悪魔がエバを惑わしたのは、「あなたが神のようになる」というものでした。神を認めず、神を拒み、自分が神のようになるという誘惑です。この傲慢の罪が終わりの日には最も明らかな形で現れます。ダニエル書 11 章には、反キリストがこのことを行なうことが預言されています。「11:36 この王は、思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高め、大いなるものとし、神の神に向かってあきれ果てるようなことを語り、憤りが終わるまで栄える。定められていることが、なされるからである。」テサロニケ第二 2 章 4 章には、「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ」と書いてあります。これが許されるのが、「四十二か月間」とありますが、患難時代の後半部分、三年半の間にこれを行ないます。そして、神の御名を汚すだけでなく、「その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった」と言っています。既に、天において神を賛美している、救われた魂があることを黙示録 7 章で教えていますし、また既に携挙されている教会が黙示録 5 章に出て来ます。神を汚し、またキリストの救いを受けたキリストを信ずる者を汚すのです。

人間中心主義によって、神の主権を退けていく動きは、反キリストの霊によるものです。キリスト者の生活というのは、神とキリストのゆえに、自由な者とされたがゆえに、かえってその自由を愛によって人々に仕える生活であります。そしてキリストが十字架を担がれた時に、それはローマの主権に屈服する印でありましたが、その主権さえも神からのものであるとみなして、神にあって従う姿であります。ローマ 13 章 1 節に、「神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神

によって立てられたものです。」とあります。それで、キリスト者にとって敬虔にかなう生活とは、社会生活、家庭生活において、主にあって従うことであることが教えられています。妻はキリストにあって夫に従い、夫はキリストが愛されたように妻を愛し、子は親に従い、奴隷はキリストにあって主人に仕えます。

しかし、違った教えが教会に中に入り込んでいく危険をパウロは警告していました。「1テモテ 6:3-5 違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと敬虔にかなう教えとに同意しない人がいるなら、その人は高慢になっており、何一つ悟らず、疑いをかけたり、ことばの争いをしたりする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、そしり、悪意の疑りが生じ、また、知性が腐ってしまって真理を失った人々、すなわち敬虔を利得の手段と考えている人たちの間には、絶え間のない紛争が生じるのです。」そして、ペテロ第二とユダの手紙には、まさに反キリストと同じような権威を侮る教師たちの姿を描いています。「2ペテロ 2:10-11 汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそうなのです。彼らは、大胆不敵な、尊大な者たちで、栄誉ある人たちをそしって、恐れるところがありません。それに比べると、御使いたちは、勢いにも力にもまさっているにもかかわらず、主の御前に彼らをそしって訴えることはしません。」それで、反キリストが来る前に、反キリストの霊が働いていて、大勢の反キリストが現れるということを教えています。「1ヨハネ 2:18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。」

### **3A 獣の一時的勝利 7-10**

先に、「だれがこれと戦うことができよう」と、獣に抵抗する者たちに獣が戦うことが書かれていました。キリストが来られ、キリストが戦われるのですが、善を悪にして、悪を善にして、獣が到来したのだから、獣が戦うのだというのが7節以降の話です。

### **1B 聖徒たちへの戦い 7-8**

7 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。

世は、キリストに属する者を憎むことを主は、弟子たちに言われました。それゆえ、教会の時代にも世の勢力が教会に対して戦っていることには変わりありません。しかし、教会には天からの鍵が与えられていることを主がペテロに言われました。そして、「ハデスの門もそれには打ち勝てません。(マタイ 16:18)」という約束があります。キリスト教会は、世からの迫害を受けても、多くが殉教してもなおのこと生き残り、福音は広まり、信じる者も増えていきました。けれども、教会は取り上げられます。そして大患難において主は、反キリストが聖徒たちに勝利することを許されます。そのため、イエス・キリストを信じたらそのまま殺される運命を彼らは辿ります。このこともダニエル

書 7 章に預言されています。「彼は、いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを滅ぼし尽くそうとする。彼は時と法則を変えようとし、聖徒たちは、ひと時とふた時と半時の間、彼の手にゆだねられる。(25 節)」ですから、キリスト者は多くの中傷を受け、殉教さえるのですが、終わりの日にはその比ではなく、これが究極な形で現れ、地上においては望みがなくなります。

ここに、「あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。」とあります。キリストの御国において、キリストの王権の中でこのことが起こりますが、その反対のことが起こります。すなわち、反キリストによる絶対的、独裁的支配です。世界帝国が始まり、反キリストを総統として、あらゆる国々、あらゆる民、あらゆる国語、あらゆる国民が支配を受けます。キリストの福音は、あらゆる国や民、国語に宣べ伝えられ、贖われた民が主をほめたたえるのですが、ここでは反キリストがくまなく人々を支配することが書かれています。

8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。

世界はすべて反キリストの支配の中に入ります。しかし、世の初めから、小羊のいのちの書にその名の書きしるされている者」たちは拝みません。黙示録の教会に対しても、「彼の名をいのちの書から消すようなことは決してない」という約束がありました(3:5)。そして、ここでは、「世の初めから」と強調されています。「エペソ 1:4 すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」大患難の時の聖徒たちは、私たちとは桁外れの、とてつもない迫害を受けます。殉教のみが選択肢となります。悪魔を拝み、反キリストを拝むとてつもない圧力を受けます。けれども、その圧力さえ屈することなく、死を選び取ることができるのは、自分の力ではなく、キリストのうちに自分を選んでくださった、神の主権によるのです。世の初めから永遠のいのちに定めておられる、その神の選びの力が、人々を死に至るまで忠実でいさせることができます。

## 2B 聖徒たちの忍耐と信仰 9-10

9 耳のある者は聞きなさい。10 とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。

ここでは、自衛行為をしてはならないという戒めです。反キリストが聖徒に勝利する権威は、三年半という期間のみ、神によって許されたものであるので、それに逆らっても成功しないという戒めです。これはちょうど、イエスが十字架につけられるときに、ペテロに対して主が言われた言葉でもあります。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。(マタイ 26:52)」世界が反キリスト体制の中に入ります。そこで抵抗勢力として、ゲリラ戦を開始しても、絶対に勝つことはできない、剣で滅んでしまいますよという警告です。しかし、「ここに聖徒の忍耐と信仰がある」とあ

ります。忍耐があって、信仰があるという対が大事です。死ぬしか選択肢がないという状況の中で、それでも、42 か月間の間だけなのだという信仰を持つことが出来ます。それゆえ、忍耐できます。信じながら、希望を持ちながら忍耐するのです。

こうして獣の国の、海から出た獣について見てきました。次に、この獣、反キリストを拝ませ、従わせようと仕向ける宗教的指導者であるもう一匹の獣について 11 節以上で読んでいきます。あらゆる権威を与える竜がおり、その権威を身にまとって現れる獣がいて、その獣を拝ませるもう一匹の獣がいるという構図です。これが父なる神、子なるキリスト、聖霊なる神の真似事であることを見ることが出来ます。